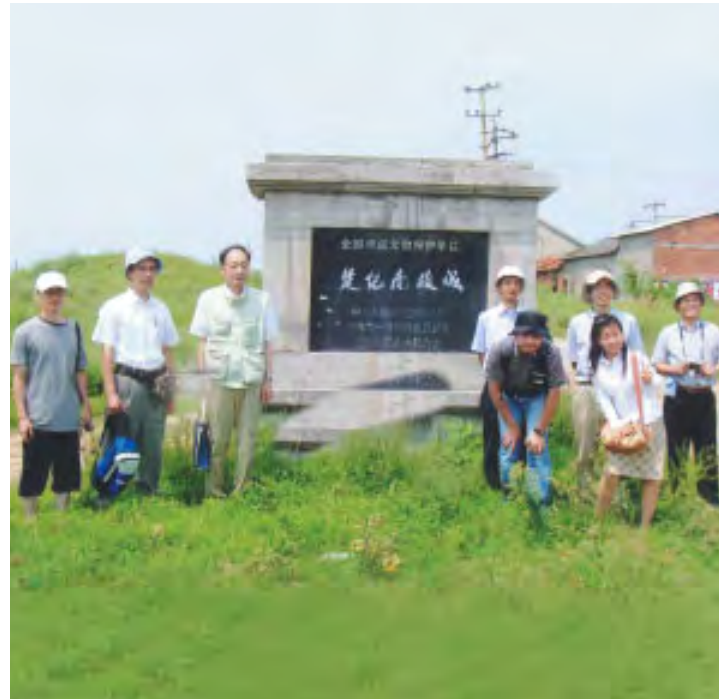


東アジア思想論分野

古代中国における文明と自然

教授
浅野 裕一



本分野では、新出土資料を中心に、古代中国における自然哲学や文明批判の発生を研究している。本年の主要な活動は以下の通りである。

2005年3月25・26日に台湾大学哲学系で開催された「新出土文献と先秦思想重構国際学術研討会」に参加し、刊行されたばかりの『上海博物館蔵戦国楚竹書（四）』に収録されている『相邦之道』について、「上博楚簡〈相邦之道〉的整体結構」と題する研究発表を行った。なおこの時の提出論文は、『清華學報』に掲載の予定である。なおこの会議に出席し、北京・清華大学の李学勤教授や廖名春教授と昨年引き続き意見交換できたことは、大きな成果であった。

2005年8月29日から9月3日まで、戦国楚簡研究会代表として研究会のメンバーを引率して、中国湖北省の荊門市と荊州市を中心に、新出土資料に関する学術調査を実施した。上海・虹橋空港から湖北省の宜昌空港へ、宜昌から荊州を経由して荊門に到着。8月31日に荊門市博物館を訪問、拙著を贈呈した後、館長の翟信斌氏と「郭店楚簡研究中心」主任の崔仁義氏から郭店楚簡に関する説明を受け、また郭店楚簡『太一生水』と『語叢』の実物を調査する機会を与えられた。その後、崔仁義氏の

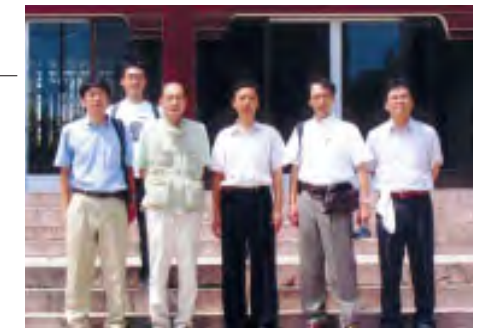
案内で紀山古墓群を訪れ、楚王墓や尖山墓地、郭店一号楚墓などを实地に調査した。

9月1日に春秋・戦国期の楚の都であった紀南城跡を視察し、また荊州博物館において張家山漢簡「二年律令」「算数書」などの実物を調査した。「二年律令」は古代の法律制度を研究する上での一級資料であり、その実物を見られたのは大変な喜びであった。

湖北省を発った後、9月3日に上海博物館を訪れ、後漢の墓から出土した『儀礼』の竹簡の実物を調査した。今回の調査旅行では、戦国楚簡が相次いで出土している江陵一帯の楚墓群の实地調査が実現でき、大きな収穫が得られた。

2005年9月8日から10日まで、中国・山東大学・儒学研究中心で開催された国際会議「儒学全球論運（2005）暨山東大学儒学研究中心成立大会」に参加し、「上天・上帝と砂漠の一神教」と題する研究発表を行った。また「新出土資料と諸子百家研究」及び「上博楚簡『曹沫之陳』の兵学思想」の中国語版を山東大学の雑誌に掲載する運びとなった。

なおこの時の提出論文は『中国研究集刊』第40号に掲載の予定である。また山東承曲阜の孔子廟や尼山の



夫子洞など、先秦儒家思想に関する史跡を視察し、多くの写真を撮ることができた。

また「上博楚簡『曹沫之陳』の兵学思想」の中国語版を武漢大学が主催するHP「簡帛研究」に掲載した。日本人の研究者の論文が掲載されたのはこれが初めてであるが、これを契機として、今後戦国楚簡研究会の会員の論文を積極的に載せて行く考えである。

本年は、『上海博物館蔵戦国楚竹書（四）』が収録する『曹沫之陳』や『東大王泊旱』『昭王毀室』『内礼』などの研究を行ったが、近々『上海博物館蔵戦国楚竹書（五）』が出版されるとの情報があり、本分野では引き続き上博楚簡の解読と研究を進めて行く計画である。

著書

『竹簡が語る古代中国思想—上博楚簡研究』（編著）汲古書院、2005,4,20. 全 265P.

『古代中国の文明観』岩波新書、2005,4,20. 全 200P

『古代思想史と郭店楚簡』（編著）汲古書院、2005,11,15. 全 386P

論文

「上博楚簡『恆先』の道家的特色」『早稲田大学長江流域文化研究所年報』第3号、2005,1.

「上博楚簡『恆先』的道家思想」北京『清華大学学报』2005年第3期、2005,6.

「黄帝書『十六経』の宇宙生成論」『中国研究集刊』第39号、2005,12,1.

「新出土資料と諸子百家研究」『中国研究集刊』第38号、2005,12,1.

「上博楚簡『曹沫之陳』の兵学思想」『中国研究集刊』第38号、2005,12,1.